［書き下し文］

延暦の雄図、皇京斯こに闢かる
鳳闕の龍閣は、帝王の宅
戸口は繁殖して、草木は澤いを被う
星移り物換り、歳を歴ること千と百
大業は磨えずして、今昔を謳歌する
爰に厥の衷を表して、攸を河東に相るに
粛粛たる霊域、穆穆たる新宮
神威在すが如く、萬方の崇むる所たり
宮の陽に橋を架くるに、日ならずして工成る
市民は歓呼して、慶でたき流れ窮くること无し

［訳］

延暦の帝による大きな企図によって、帝都がこの地に開かれた。宮都に聳える壮麗な楼閣は帝王の宮城だ。人口は増え、草木も潤った。以来、数多の年月が移り変わり、千百年が過ぎた。それでも延暦の偉業は失われるものではなく、今昔の栄耀を高らかに謳うことができる。明治二十八年の今日、その思いを表して、河東は岡崎の地に目をやると、清く美しい神域に、麗しく立派な新宮が建造されている。まさに神がおられるかのようで、万民によって崇め奉られる。平安神宮の南側に橋を架けるにあたり、日を経ずして工事は完了した。市民は歓呼の声を挙げ、疏水運河の慶流は尽きることはない。